琴の学習

リセ・ケネディ日本人学校

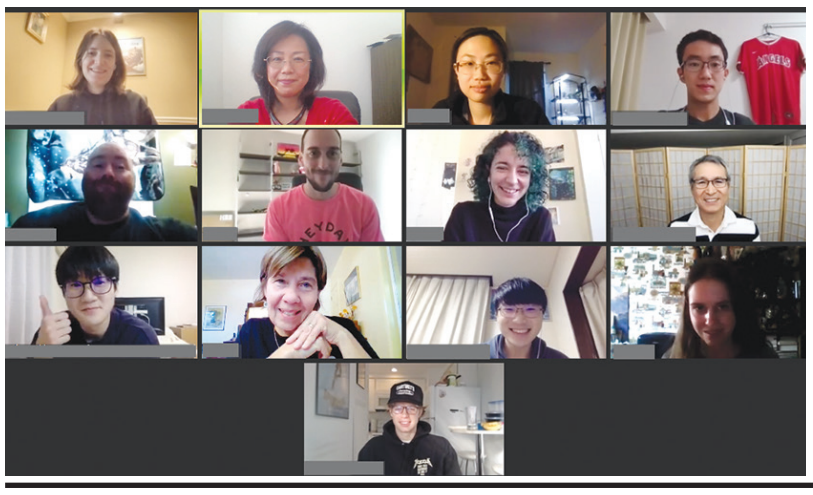
リセ・ケネディ日本人学校（高松さなえ校長）全日課程幼児部は18日、芸術鑑賞会を行い、森本雅美氏が琴の演奏を披露した。森本氏は現在、同校のアフタースクール「空手」講師をしている。子どもたちは、いつもと違う和服姿の森本氏が奏でる曲に耳を傾け、芸術の秋を楽しんだ。

子どもたちはこの日に向け、小型の琴を段ボールで制作したり、琴の演奏動画を見たりして関心を徐々に高めていたが、華やかな着物をまとった森本氏と教室に用意されていた本物の大きな琴を見て、思わず息をのんだ。琴の前に静かに座り、どんな音が奏でられるのか耳を澄まして待っていた子どもたち。講師が琴柱を入れる前に弾いた音を聞いて「なんかちょっとこわい」「お化けが出る音みたい」と言っていたが、琴柱を入れると途端に音が変化することにびっくり。優しく澄み切った音が流れだすと緊張が解け、「さくら」などの曲をうっとりした表情を浮かべて聞いていた。

楽しい 週刊NY生活デジタル版 www.nyseikatsu.com

日本の大学生と意見交換

フィラデルフィア日本語補習授業校アダルトコース



フィラデルフィア日本語補習授業校（兒玉亮一校長）アダルトコースは6日、ゲストとして日本在住の日本人大学生3人を授業に招き、グループ活動「日本の大学生にインタビュー」を行った。

日本の大学生からは「アメリカ在住の日本語学習者と話したのは初めてで、とてもいい経験ができた」「コロナ禍でも一生懸命日本語を勉強していて、大変刺激になった」と好評だった。アダルトコースの学生達は、「日本在住の日本人がゲストで来てくれたのは初めてで緊張したが、今の日本の状況について知ることができた」「自分の日本語が通じたので、勉強してきてよかった」など、今までの学習の成果を実感できるよい機会になった。

週刊NY生活　教育なんでも相談室

幼少期の母国語習得と学習方法

フレンズ帰国生母の会　葉山ゆりえ相談員

滞在歴：フランス（10年）
滞在時の子供の年齢：長男1歳～11歳

Q　3歳になる娘と1歳の息子を連れて、アメリカへ赴任することになりました。日本人の少ない地域のため、まだ日本語もままならない子供達の母国語である日本語の学習方法や、気をつけたら良い点などアドバイスをお願い致します。

A　母語の習得は人間形成の基盤になり、5歳までに基礎が出来上がると言われているようです。わが家も息子が1歳半の時に渡仏したため、母語に触れる環境をたくさん作るよう心がけていました。国は違いますが、参考までにわが家の体験をお話しさせていただきます。

渡仏した頃、息子の日本語はいくつかの単語をしゃべる程度でした。幼稚園に入園するまではほぼ日本語の生活でしたが、両親からの日本語だけでは同じような言い回しで語彙が増えないため、他から日本語が入る環境を作るよう意識して過ごしました。日本のテレビ番組を見せたり、絵本を読んだり、童謡を聞かせたり、通信教育の教材も日本から送ってもらい活用しました。当時、私達が住んでいた地域に子供を持つ日本人家族はおらず、母親が日本人の日仏家族が多く住んでいました。お子様が息子と同じような年齢で、日本語教育にも熱心な方々で週1回集まり、日本語の環境で子供たちを遊ばせていました。

3歳から現地の私立幼稚園に入園しました。最初の頃、フランス語が話せなくてお友達に言いたい事が伝えられず、家でもフランス語を使うべきか迷った時もありました。しかし母国語の習得もまだまだでしたので、フランス語はその時の対処として簡単なフレーズを教える程度にし、家では引き続き日本語で会話することを徹底していました。

その頃、日本語の補習校が地域になかったので、週1回の集まりを日本語を学ぶ会として、母親たちが教えることになりました。その後、幼稚園教諭の方との出会いがあり、日本の幼稚園のような内容で教えていただくことになりました。

現地小学校に入学した6歳の頃、日本への本帰国が先送りとなり、この頃から現地校の学習も重視せざるを得ない状況となり、日本語の会を退会、日本語の学習は家でのみ継続しました。漢字の学習には苦戦しました。低学年のうちは漢字数が少なく毎日少しずつ覚えられましたが、学年が上がるにつれて、複雑で画数の多い漢字も増え、文字数も増し、なかなか定着するまでに至りませんでした。最初の頃は書き順にも拘って学習を進めていましたが、はかどらなくなり、漢字嫌いにならないために、書けて読めればいい程度の学習にとどめることにしました。漢字ドリルや、無料サイトの教材を利用し、繰り返し学習を大切にしました。

毎年夏は一時帰国し、小学校に2週間受け入れていただき、日本の学校生活にも触れる機会を作っていました。

11歳の3月に本帰国し、公立小学校6年生に転入しました。日本の学校経験があったからか、戸惑いもなく、日本語面も苦労はなかったようです。中学受験も帰国生枠を利用して国語と算数で受験し、合格もいただきました。

ご兄弟のいるお子様が現地校に通うと、家での会話が兄弟間で現地語になり、ご両親へも現地語で話すようになると聞きます。日本語保持には、ご両親が根気強く日本語でお話されると良いようです。土台となる言語がしっかりしていて初めて第2の言語が発達するそうです。母語の習得と保持も大切ですが、海外生活でしか知り得ない貴重な体験もありますので、ぜひ、有意義な生活をお送りください。

「フレンズ帰国生母の会」では「母親が歩いて見た帰国生のための学校案内」を毎年9月に発行しています。帰国生入試を行う首都圏の学校を訪問して集めた帰国生インタビューや入試・編入情報などを掲載、帰国生のご家庭から好評を頂いています。HPをご覧の上、ぜひご利用ください。

本欄への相談は

●フレンズ帰国生母の会
Tel: 03-6633-4096（東京）
http://fkikoku.sun.bindcloud.jp/

1983年10月設立。海外在住経験のある母親たちのボランティア団体。海外赴任のアドバイス、帰国子女入試・編入など、海外生活教育相談を中心に活動している。